
19

Rie

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

19

【Nコード】

N5134E

【作者名】

Rie

【あらすじ】

私の今までの友情や恋愛の出来事…新しい出会いと別れ。。。でも、その結果を良くも悪くもするのは自分次第なんだ。

友情

人に弱みなんて見せたくなかった

自分の弱いところを見せるのが嫌だった

だから自分を偽って、他人から頼られる存在になろうと無理していたところがあった

だからなのかな…

あたしの友情と恋愛は片想いになることが多い。。。

いつも、仲良くなった友達と上手くいかなくなるときがある

それに

今まで一度も男の子と付き合ったことがない

どうしたらいいの？

何が悪いの？

もう嫌だ…

私には自分を責めることしか出来ない

わかってる。

皆は悪くない…

私に勇気さえあれば。。。

いつからか私は人の目を気にするようになってしまった。。。

だから、いつも一緒にいた仲の良い友達の何気ないちょっとした変化に怯えて不安になる。。。

相手にとつたらなんでもない行動。別に私を嫌っているわけでもない。

でも、私は勝手に不安になってしまふ。

少しでも不安になるといつものように接することが出来なくなる。
テンションは一気に下がり頭の中では考え事ばかり…

私…何かした？

何か怒らせた…？

もうこうなったらどうしようもない。。。
自分でもどうしていいかわからなくなる…

周りの友達も私の元気の無さに気づき、どう接していいかわからず、
気まずさだけが流れる。。。。

4

それから数週間、私の中にみんなとの壁ができてしまった。

あれ？私、いつもどうやって皆と会話していたっけ…

私の顔から笑顔が消えた…

皆も私に話かけなくなった…

私達の溝はつまらなかつた。。。。

もう、私の中では答えが出ていた…

きつともう…無理だ。前みたいに皆と笑って楽しく過ごすことはない。

皆のことは嫌いじゃない。好きだよ。でも、この状況は辛い。。

皆は悪くない。

些細なことから気まづくなり、どうしていいかわからなくなって、私は皆と壁をつくり、この状況が嫌になって逃げたのだ…

最低だ…

私は皆を裏切ったんだ。

ごめん。

ごめん。

ごめん。。。。

もう心の中で謝ることしか出来なかった。

皆に私の気持ちを書いた手紙を渡した…

直接伝えるのは怖かった…

次の日から皆とは違う席に座って授業を受け始めた。皆が座っている方向から笑い声が聴こえてくる。

もう私がいてもいなくてもいいんだ。

自分が決めたことだったのに少し切なくなった。。

皆の楽しそうな声を聞きたくなかった。

私は用も無いのに無心に携帯をいじって気をまぎらわしていた。

そんな時、保育所からの友達からメールがきた。

「元気??」

何気ないメールが今の私の心を癒してくれた。

授業中、友達とずっとメールをしていたおかげで意外とあっというまに時がすぎた。

授業が終わり、私はすぐに教室を出た。やっぱり皆に会うのは気まずい。

アパートにつき、私はバイトまでテレビをみて気を落ち着かせた。

私は今日から皆を頼ることは出来ない。。。

今まで、本当に皆に頼って助けられていた。

でも、今日からは一人でどうにかしなくてはいけない。

でも、自分で決めたことだ。頑張らなくては。

私は、今回の悩みを地元友達一人に電話やメールで相談していた。

久しぶりに聞く友達の声になんだかすごく和んだ。

私達は連絡をとるたびに

「やっぱり地元の友達は最高だね！！なんでも話せるもん」

本当にそう思った。この友達にはなんでも話せた。悩みを打ち明け、かなり楽になった。そして、いろんな話をした。私は久しぶりに笑った。とても楽しかった。

最後に友達は

「例えば大学で一人になっても私がいるから。いつでも電話でもメールでもして」

そう言ってくれた。すごくうれしかった。

友達のやさしさ、大切さがあらためてわかった。

私は皆に別れを告げて数日後、ふと私達がやっていたホームページに日記を書いてみた。

きっとコメントなんて書かれない。

私は裏切ったんだもん…

そう思いながらも短い日記を書いてみた。

次の日、ホームページを開いてみるとコメントが書かれていた。皆からだった。

なんで…私は皆を傷つけたんだよ？裏切ったんだよ？みんなの優しさに胸が痛んだ。

でも、もうあの頃にはもどれない…

仕方ない。

私は皆がいない新しい大学生活を始めるんだ。

自分でこうなることを決めたんだ。

私は一人じゃない！！

強くならなきゃいけないんだ…

友達…それは一生の宝物。自分で掴む宝物。

片想いの友情を両想いの友情にするのも自分次第。

私は、今まで現実から逃げてきた…でも私には支えてくれる友達がいる。

今まで出会った人と友達になれたこととても誇りにおもう。例え、それが短い付き合いだったとしても…

皆に会えて良かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5134e/>

19

2011年3月16日19時55分発行